

令和元年度 第1回 秋葉区地域公共交通検討会議 会議録

日時：令和元年12月3日（火）午後1時30分～

会場：秋葉区役所6階 601会議室

出席：秋葉区自治協議会選出委員 阿部光子、田中幸一、保科代志夫、佐藤喜代一、  
大貫弘美

山の手コミュニティ協議会住民バス運行委員会	横山義男
国土交通省北陸運輸局新潟運輸支局（輸送・監査部門）	塩原隆太郎
新潟県秋葉警察署	佐藤亮
新潟県ハイヤータクシー協会地区支部	大橋英樹
泉観光バス株式会社	桃沢徳明
さくら交通株式会社	三田啓祐
新潟市都市交通政策課	丸田喜之
秋葉区役所地域総務課	小野秀之
秋葉区役所建設課	落合謙
事務局（秋葉区役所地域総務課）3名	

（欠席：秋葉区自治協議会選出委員 蓮沼美宣、新潟交通観光バス株式会社）

1 開会

2 議事

（1）秋葉区生活交通改善プランの改定について 資料1 参考資料1  
事務局から、改定の経緯や今後のスケジュールについて説明を行いました。

（2）現行プランにおける取り組みと事後評価について 資料2 資料3 参考資料2  
事務局から、現行プランにおける取り組み及び取り組みに対する評価と課題について説明を行い、意見を求めました。

<出席者意見>

（事務局）

今ほど説明しました（1）、（2）及びそれに付随する資料をご覧になっていただきまして、評価と課題につきましては、事務局で思いつくところをまとめさせていただいておりますが、ご出席の皆様から、さらに、評価及び課題以外についてもございましたら、ぜひご意見等をいただきたいと思います。それぞれ、出席の所属等で普段お考えの点などございましたら、併せてご意見等をいただければと思います。今後、第4章、第5章、第6章を定めていくにあたりまして、本日の皆様のご意見を参考にさせていただきたいと思っておりますので、ぜひ忌憚のないご意見等をお願いしたいと思います。

それでは、ご意見、ご質問等をいただきたいと思います。ご発言の際は挙手のうえ、お名前をおっしゃってから、ご意見をお願いしたいと思います。特に順番等はございませんので、ご意見等がありましたら、お願いします。

(横山委員)

山の手コミュニティ協議会の住民バス運行をしております、会長の横山義男です。この改善プランですが、計画も理念も内容も文句のつけようがないと思います。問題は、今までを振り返る中で、自治協議会も10年前から公共交通に取り組んできて、計画も立派、理念も立派ですけれども、何が問題かという、実行部隊がなかったこと。今日の会議でこの素晴らしい秋葉区の公共交通を3月に決めたら、その理念に基づいて、だれがどういうふうにして実行していくのか。

今は超高齢化社会とあって、免許証を返納したい人もいっぱいいます。私は今、住民バスの社会実験をして、正直言って、まだうまくはいっていませんけれども、多くの方から意見が聞かれているのは、山の手地域だけでは、それはありがたいけれども、下越病院に行けない、医療センターにも行けない。免許証を返納したら、ばあちゃんを送ることもできない。公共施設にも移動できない。自治協議会もデマンドなどの社会実験をしましたが、収支率がうまくいかなかった。その理由は地域限定だったことと、行政依存だったことです。

行政と市民が一緒になって、このプランに対して実行していくと。実行して、その積み重ねで改善していくことがなかったために、今日まで10年間かかっても、便利になったかという、実態は何も変わっていない。むしろ、不便になっている。どうすればいいかという、私も今は社会実験をやっていますけれども、やはり地域限定でなくて、秋葉区全体を網羅、巡回をする。今日は実際に、それぞれの立場でいいアイデアを持っている人たちがいるわけですから、免許証を返納しても買い物や病院、公共施設への移動というときに新潟交通の役割。今日いる泉観光とかさくら交通の任務をどうするかという。しかし秋葉区は、そこに大きなバスで行けない地区もあります。そこはタクシー会社の皆さんが埋めるという絵を描いたら、いつまでもそのうちには市民はついてきません。スピード感を持って、このプランに基づいて、本当に免許証を返納してもいい形、絵を描いたら、1年目の到達点はいいプランを作る、市民みんなの意見を聞いてこういう絵を描く、2年目は、そのための実験をやる、3年目は本格運行をするのだという意気込みで取り組まないと、3年後にまたプランの見直しです。私は議論から実践のときに来たと思います。こんなに立派なものができるのですから、もうやりましょうと。やらなければやらないと思っていますので、今日の会で踏まえて、このプランからいうと3月ごろまでにまとめて、まとめた後に、それをどうするかということをしていかないと、絵に描いた餅だと思うので、そうしませんか。

もう1点、収支率がうまくいかなかったのは、先ほど言ったように、行政依存だったこと。

私は、秋葉区のコミュニティ連絡協議会の役をやっていますけれども、秋葉区は新潟市で一番素晴らしいコミュニティ連絡協議会というものを持っていて、定期的に会合をします。やはりその人たちの力も借りる。乗って支えることも、自分の地域で困っている人をどうするかというのは、自分たちの地域で責任を持つ。そこの連携は不可欠だと思います。

先のことを言って悪いですがけれども、それぞれのコミュニティ協議会が11あるわけですか

ら、荻川エリアのコミュニティ協議会、新関エリアのコミュニティ協議会、小須戸地域エリア、その辺が乗って支える、運動を一緒になって作っていけば、収支率についてはどんどん上がると思います。一緒になって取り組んでいけば。実行しながら改善プランをしていくと。運行を実践しながら直していくと。そうしない限りは、いつまでたっても公共交通は解決できないと思います。

(事務局)

ありがとうございました。今ほどの住民バス実施主体の横山さんからご発言がありましたが、これに関することでもいいですし、それ以外でもけっこうです。ほかに何かございませんでしょうか。

(保科委員)

山の手コミュニティ協議会の保科と申します。今、横山さんが広い範囲の秋葉区全体のことを言われたのですが、今、区バスは泉観光が運行いしておられますけれども、最初はとにかく乗車率が非常に低かったと思うのです。ところが、最近は非常に乗車率が高くなってきているように思います。常に人が何人か乗っております。また、季節に応じて運転手がいろいろなイベント体制といいますか、クリスマスがくればサンタクロース、ハロウィンがくればハロウィンのイベントをする。とにかく年数をかけながらここまで定着してきたのです。何をやるにしても1年、2年では実現できないと思うので、年数をかけていけば、着々と住民の方にも理解していただいて、乗車率も上がってくるのではないかと思います。今、山の手がふれあいバスの社会実験をやっていますけれども、まだ丸2年経っておりませんが、やはり試行錯誤の連続でございまして、これも年数をもう少しかけていかないと、なかなか増えていかないのではないかと思います。

私は小須戸温泉花の湯館に勤めておりまして、非常に利用者が多いのです。まず、新潟市内から来られます。どうやって来るのですかと聞くと、矢代田駅を降りて何分くらい歩くのですかという話で、とても年寄りに30分、40分歩いて来なさいとは言えない。結局、矢代田駅の利用を勧めないで、あくまでも新津駅。西口と東口がありますから、新津駅の利用を勧めたほうが話が分かりやすいということもあります。そういった観点から見て、やはり年数をかけて着実にお客さんを増やしてきたのではないかと思いますので、今の社会実験もある程度年数が必要ではないかと思います。

(事務局)

ありがとうございます。今ほど、住民バスについての意見が出されておりますが、区バスについても何かありますでしょうか。

(田中委員)

満日コミュニティ協議会の田中と申します。満日地区は、過去にデマンドタクシーの実験をやったことがありますけれども、なかなかデマンドタクシーが浸透しなくて、採算の合うようなことになっていなかったと思っています。ただ、当時の自治協議会委員の方は一生懸命に宣伝をしているようにも見たのですが、やはり地域への浸透が薄く、ここにも書いてありましたけれども、住民の意識が十分に熟しているような状態には思えなかったのです。かといって満日もご存じのとおり、おそらく将来的には公共交通の空白地域になると

思います。今、路線バスの中で、直接、新潟に乗り入れしているということが一つ、秋葉区の中で特徴があると思います。これからも新潟に直接行けるような路線バスは残していかななくてはいけないだろうと思っておりますが、そういうところを残すためには、地域としてどのようにやったらいいかという話まではしていません。しかし、あったらいいと思っております。

私も年に五、六回しか利用しないのですけれども、採算なんて当然合わないと思いますが、大変重要なバス路線だと思っております。今後なのですけれども、先ほどだれかがおっしゃったように、これから地道に重なるように、公共交通のこういう会議をどうして、いかに広く皆さんに知ってもらうということも大事だと思っております。

(事務局)

ありがとうございます。二つほど周知、PR的な視点からの意見が出ておりますが、どうでしょうか。

(大貫委員)

秋葉区のモデルハウスを運営している、だんだん嶋岡の大貫と申します。先ほど、横山委員からももっと広域的にというお話があったのですけれども、私はそれと併せて、もう少し若い世代にこういうことで話し合われて、こういう計画を作っているのだということをもっと周知していく必要があるのではないかと思います。今、困っている高齢者だけの問題ではなくて、それを支えていく家族が、こういう仕組みを作るためにみんなで動いているということを知らないと思うのです。そういうところにもっとアプローチしていく必要があると思います。

(事務局)

ありがとうございます。現利用者というよりは、周りの方々へのPRということですね。まず、いくつか出てきましたが、運輸支局の塩原さん、例えばほかの地域で出ているような意見、あるいは成功例みたいは何かございますでしょうか。

(新潟運輸支局)

デマンドタクシーについては、どこの地区でも議論されていてとてもいいことだと思うのですが、やはり皆様方がお話されたとおり、地域の方の理解、地域の方の利用がないとなかなかうまくフィットしないというところはあろうかと思います。やはり、入れてみてもなかなか乗り合わせというところが難しい部分であったりするかと思います。やはり、私どもとしては路線バスがずっと残っていて、それを補完する形で乗り合いタクシーということが理想だと思っているところです。

(事務局)

ありがとうございます。バスの補完的な意味で乗り合いタクシーと。運行事業者が運行している中で、お気づきの点などがございましたら、ご意見をいただければと思います。

(さくら交通株式会社)

さくら交通の三田と申します。今年7月22日から今まで、新潟交通観光バスが運行されていた新津駅から下新までの区間を運行しております。弊社が運行してまだ4か月くらいですけれども、確たるはなかなか言いにくいことのあるのですけれども、今回の会議の中で、秋葉区が今後の生活交通の改善を行っていくということですが、現在、当社でも、今の下新線

の改善策というものを練っているところです。具体的には、主要施設へのアクセス改善です。できましたら、来年の4月から下越病院に寄りたいと考えています。これは、当社が事業に参画するにあたって、私どもの提案事項の一つでございました。これは、できるだけ速やかに遂行していきたいと思っております。今も新潟交通観光バスが運行していますが、当社も直接、下越病院の車寄せまで入っていききたいと思っております。大安寺方面の方、あるいは金沢町下新線の方の病院へのアクセスが4月1日から改善されると考えております。

第2点目は、今の新津駅から下新までの乗降別の推移を見ますと、大安寺から新津駅まではある程度の乗車があるのですが、大安寺から下新までは、今、正直、苦戦しております。理由としては、皆さんご承知のとおり、阿賀野川の土手を走るの、集落の方々が土手まで上がってこれないと。特に今は高齢化社会ですので、お年寄りの方は土手まで上がれない。ましてや冬期間ではなかなか難しいだろうということで、先般、地域総務課と協議しまして、土手を通らないルートをもとに草案として検討してもらいました。現行、土手を走る路線だと、近辺の集落の方のカバー率というのは大体3割くらいかと思うのですが、6割くらいまでは上がるだろうと。ただし、残念ながらすべての集落の方のところまで、私どものコミュニティーというのはジャンボタクシーと同じサイズですから、それでもまだ入れない場所も残念ながらあるということです。できるだけカバー率を高くして、住民の皆様の利便性が一段と向上するように練っています。

バリアフリー、ノンステップということで、私どものものは小さいですがノンステップですとか、さらにステップの下に自動的にもう一つ小さなステップが出るものがあるのです。当初からそういったものを装備しながら、しかも冬期間用の対策として、あえて4WD車にして、できるだけ安全面を考慮しています。今後、下新線に関しては、下越病院への直接乗り入れと、来年の4月以降になるか分かりませんが、将来的には大安寺から下新までの間を、土手ではなくて下の道を通して、集落でできるだけ多くの方に利用してもらおうと。この二つを検討しているところです。何とか住民の皆さん方のお役に立てるように、当社としても全力を尽くした頑張っていきたいと思っております。

(事務局)

ありがとうございます。実際に、運行事業者からのご提案ということでした。秋葉区内は泉観光でも運行をご協力いただいておりますが、いかがでしょうか。

(泉観光バス株式会社)

泉観光バスの桃沢と申します。弊社は区バスをやらせていただいだいぶ経ちます。利用率というところでも年々伸びていっているところではありますけれども、やはり見ていると、ご利用される方の多くが、買い物の方、花の湯館へ行く方、あとは植物園ですとか美術館とか、そういったところでイベントなどがあると、県外を含めた秋葉区外の方が新津駅まで来られて利用されているということが多いのではないかと思います。

先ほどからお話のように、区バスの現状でいうと、どちらかというと秋葉区からすると南側といえいいのでしょうか、小須戸を回って、矢代田を回ってというようなことになってきますけれども、今もお話のあった下越病院への接続ということはできていないと。現存の路線バスだけで利用者の方に不便がないのかということも、考えていかなければいけない

のではないかとということがあります。

買い物のお客様ということですので、今は、ショッピングセンター原信のほうには運行してはおりますけれども、やはり大きいショッピングセンターというウオロクにもありますが、そちらへの乗り入れはしていません。ただ、西口から出れば、すぐ行けるわけで、今は裏手のところが今後どのようなものになっていくのか分からないですけれども、ああいったところに商業施設のようなものができるのであれば、需要もあるのかと思いますし、道もよくなりましたので、乗り入れは可能なのかなと思います。ウオロクの前の道路というのは非常に交通量の多い道路になりますので、あの道路上にバス停を作るというのは、安全面からするとどうかと思います。かといって、駐車場内、例えばウオロクの前にバス停を置かせていただいたときにどうだということ、あの駐車場も整理があまりよくないといえますか、四方八方どこからでも来れるような駐車場になっていますので、そういったことも課題としてはありますけれども、あの辺もいろいろと開発が進んできて、利用者も多いのではないかと思いますので、そちらの方面にも延伸ということも考えてみていいのではないかと感じております。

また、便数の関係などがありますけれども、弊社でいうと、どうしても乗務員を2名体制でないと1日通して運行できないという状況になっておりますので、さらに延伸、また別な地域への乗り入れということになってくると、現状のダイヤが確保できないところもあろうかと思いますが、この辺は少し悩みどころではありますけれども、事業者としてはできる限りのことはしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

(阿部委員)

荻川コミュニティの阿部と申します。先ほどから考えていましたが、新津のまちを話すときに、荻川は何となくアウェイ感があって、コミュニティ協議会に関わるようになったときも、ぜひバスがほしいというお話をしましたら、駅があるだろうと。だから、駅を使いなさいということで終わってしまったのです。あれから10年くらい経ち、ものすごいスピードで高齢化が進んでいまして、やはり区バスが走っていたら嬉しいという思いがあります。荻川には来ていませんので。

私自身が幸か不幸か免許を持っていないものですから、ここに来るに至っても、自治協議会の役員になったとき、荻川駅まで歩いて電車に乗って新津を降りて、新津駅から歩いて25分から30分かかりましたけれども、そうやって来ていました。歩くことは嫌いではないので、それはいいのですけれども、やはりいつも30分に1本は通っているというバスがあれば希望が持てるかと思って、今のお話を伺っていたところです。乗り物に乗るといのは、なんとなく買い物しかイメージがないと思うのですけれども、買い物は、荻川の人でも一応大きなスーパー、大きいというか駅のこちら側にもあちら側にもありますので、皆さん何とか、今のところ買い物は行けている状況なので、ハートの部分というか、どこか行きたいのに行けないという気持ちの高ぶりというか、あれが見たいとかこれがほしいとか、人と会って話したいとかいうときに乗れる乗り物があつたらいいと思って、お話を伺っていました。

父が下越病院に入院したときに、やはり乗り物がなくて、最悪、帰りは新津駅まで歩いて帰って来ました。30分くらいでしたので、そんなに苦ではないのですけれども、暗くなって

いくのにとぼとぼ歩くのは寂しいものがありました。下越病院から荻川へバスが出ているのは週1回くらいでしょうか。行きはいいけれども帰りはないとかいろいろなことがあるので、希望としては、30分に1本は回ってくれているバスがあるというのが、これからの希望になったら嬉しいという思いがします。コミュニティで頑張るといことも、もしそういういったことが具体的に出てくるのであれば、横山さんがおっしゃるように、運動してもいいかなと思って伺っていました。よろしくお願ひします。ときどき、市之瀬の辺りをスクールバスが通るのですが、このバスは利用できないものかと思ひて、眺めています。

(事務局)

ありがとうございます。荻川地区の実情かと思ひます。ひらけているようで、意外とバスの運行という意味ではまだまだというところでしょうか。

本日は新潟県のハイヤータクシー協会さんから来ていただひていますが、北区でデマンドをされているというところで、少し参考的な意見を伺えればと思ひます。

(新潟県ハイヤータクシー協会)

私は、新潟県ハイヤータクシー協会下越北部の会長の大橋と申します。私は、新潟市で太陽交通というタクシー会社をやっております、太陽交通はグループで、新発田と新潟市内と白根で運行してしまひて、今、私が担当してしまひますデマンドタクシーは新潟市北区と新発田のデマンドタクシー、白根のデマンドタクシーをやっています。

今、秋葉区はバスがたくさん運行されてしまひて、タクシーはまだ運行されていないというこで、バスはどうしてもたくさんの方をお乗せして、料金はある程度安くできるかと思ひうのですけれども、タクシーは料金が高いものでして、今まではマイカーを持った方たちがたくさんいたので、移動ということはすごい安く移動できるというイメージが皆さんあるかと思ひうのですけれども、これから免許を返納したりというこで、本当は移動することはお金がかかるものなのではないかと思ひてしまひます。この中で、行政の方たちだけの税金だけでたくさんお金をいただひて、安く運行できるということだけではないと思ひうのです。乗る方、行政の方、私も運行する会社の三者が歩み寄って、運行をずっと続けていける妥協点をこれから探っていかないといけないかと思ひてしまひます。

先ほど、タクシーの実証実験で、16パーセントくらいの収支率ということになっていたのですが、北区は30パーセントを目標にしてしまひて、最初は600円で1回運行してしまひて、お二人乗り合わせになった場合は300円、300円ということをやっていたのですけれども、現状は、それで30パーセントに到達しないというこで、お一人で乗った場合は1,000円いただひてしまひます。ただ、それを乗り合わせたときに300円になると。ですので、お客様方も積極的にお友達と一緒に乗り合わせていただひて。私たち運行会社も、積極的にA地点、B地点と離れているのですけれども、なるべくマッチングさせる努力をしまひます。自治体の方たちも、残りの足りない部分、7割くらいでしょうか、負担していただひてというような形で、秋葉区のどこが一番いい地点なのかはまだ分からないのですけれども、そういった感じで少しずつ探っていって、バスがないところはタクシー、バスが運行できるところ、電車が運行できるところというような形で、積極的に妥協点を探していって、三者のどこかが無理するのではなくて、一番いい妥協点を探していくということが今後も続いていく中でできるかと思

います。

(事務局)

ありがとうございました。各運行事業者からも参考になるご意見をいただきました。今後を考えるにあたりでもいいですし、今まで利用したことがある、あるいはそれぞれの立場で公共交通を見て、お気づきの点がありましたら、お願いします。

(横山委員)

都市交通政策課の方がおられるのですけれども、我々市民は区バスというと区を巡回するのが区バスだという発想なのです。今の区バスというのは、おそらく合併したときの名残もあるだろうし、一部を走って区バスと呼んでいるのですけれども、私は調べたのですけれども、区バスというものは、例えば見附は5年前からやっているように、6台のバスで運行本数1日61便でぐるぐる回って、そのほか秋葉区の田家のようにバスが通れないところは必要に応じてコミュニティワゴン、ワゴンバス、さらにそれ以上に狭いところはデマンドタクシー、これらを組み合わせて非常に成功して行って、年々乗車率が上がっている、免許証の返納率も上がっているというデータがあるのですけれども、見附市はコミュニティバスと呼んでいるのですけれども、こういう取組みというのは、例えば秋葉区でやりたいといったときは可能なのかということ。もちろん収支率について私は否定しませんけれども、みんなが乗って支えるという運動はやっていかなければならないのですけれども、私は福祉の要素を含め、例えば新潟市8区あったら中央区は儲かるから走らせる、秋葉区は収支率が悪いから、収支率が悪いところの運行は認めないということではなくて、やはり広く市民が平等に、例えば先ほど言われたように、美術館に行ってみたいとか、図書館に行ってみたいと。これは心を豊かにする。そういった移動手段を確保することは、これから考えていかなければならないと思います。収支率は否定しませんけれども、そういう意味で、山の手コミュニティ協議会が今取り組んでいるのは、自分たちも責任を持とうということで、運行委員会の中に各自治会長に必ず入ってもらって、見直しをして、12月から冬ダイヤを作って、昨日は1便が満杯の状態だったと。今日も調べたら、2便は満杯状態だと。そのほかの便はまだ調べていないのですけれども、やはり継続して皆で取り組んでいけば乗ってくれるわけです。乗って支える運動は、やはり区バスはおそらくほとんど行政依存だと思います。住民バスは俺たちのバスだと意識して、収支率が悪くても支えていこうという運動を積み重ねて、とにかく運行を開始すると。何とかそこまでしていかないと、また心配です。

(新潟市都市交通政策課)

都市交通政策課の丸田と申します。本庁で公共交通政策を担当しております。これから議論になります生活交通改善プランの上位計画となっております公共交通網形成計画を今年の7月に作りましたが、その担当をさせていただいております。

横山委員のご発言の中で、例えば地域が主体となって取り組むことが非常に大事だというようなお話をいただきましたけれども、まさにそのとおりでございます。今回作ったこの計画においても、地域と行政ないし事業者がそれぞれ単体で取り組むのではなくて、三者が連携しながらいろいろな施策を講じていくことが持続可能であり、それで利用者が伸びて好循環につながっていくのだということで、そういったところも計画に盛り込んでいるという

ことで、まさに同じようなご意見をいただいて大変ありがたかったと思っております。

後のほうのお話で、見附市の例がございましたけれども、幹線となるところにたくさん走らせて、支線となる部分についてはワゴンであったり、デマンドみたいなところで補完されているというようなことでございます。私どもは、中央区を集中的に投資していくということでは全くなくて、もちろん中央区には大学ですとか大きな病院ですとか、いわゆる高次都市機能が集積していますので、その公共交通は当然充実していかななくてはならないだろうと思っております。一方で、その都心へのアクセス軸、秋葉区でいうと鉄道が主なところになってきますけれども、そういったところの充実はもちろん一つ重要だろうと。さらに、それに加えて、旧来のまちなか、秋葉区は新津と小須戸が一緒になっているわけですが、その域内の公共交通もしっかり手当てをして、充実していかななくてはいけないだろうというところで、先ほど区バスの話をいただきましたけれども、区バスは政令市移行に併せて、区役所へのアクセスですとか、区の一体感醸成を主な目的に運行しております。一方で住民バスについては平成17年度から始まっている制度でございますけれども、これはバス路線の廃止ですとか、あるいは公共交通の空白地域において、地域の方々が主体となって運営する乗り合い事業に対して市が支援するという制度でございます。横山委員の地域からもその制度に則って住民バスの社会実験をしていただいているということでございます。

もともと住民バスは運行経費の最大7割を支援するという制度だったのですが、人口密度が低かったり、高齢化率が高かったりみたいなところで、人の移動需要というのは地域によって違って来るだろうということで、数年前に制度自体を見直しまして、7割上限から地域の高齢化率などを加味して、最大85パーセントまで支援の枠を広げております。さらに、以前は社会実験などを経ずにいきなり本格運行に移行して、結果、市で上限7割までしか補助できないとなると、欠損額が出てしまう可能性があるということで地元組織がそのリスクを背負い込まなければならない制度であったのですが、その仕組みも見直しをしまして、社会実験という制度を設けて、社会実験期間中は我々の上限の補助までに収入が満たなくても、行政でその部分を補填させていただきますという実験制度を作っております。より地域の方々に積極的にご参画いただきやすいような制度には見直しつつあるということではございます。お話のあった見附市の例をもとより、他都市でいろいろな事例がございますので、地域の状況、他都市の状況なども参考にしながら、よりよい公共交通になるように、区とともに努めていきたいと思っております。

(事務局)

ありがとうございました。本日、自治協議会の佐藤委員が見えられていますが、山の手の住民バス、小須戸地区にも乗り入れておりますが、いかがでしょうか。

(佐藤委員)

山の手の計画には非常に敬意を表しています。ただ、やはり最終的にはお金ですよ。本当に儲かっていればだれでもやれるので、例えば今のところ補助金は出ていますけれども、まずこういう問題は続けることが大事なわけです。しかし、実際問題、私は見えていまして本当に苦しいと思います。やはり補助金についても、3年でいいのかという気もしますし、育てるのであればもう少し長くなければいけないし、そこらへんは見直していただきたいと考

えております。

改善プランの全体を見ますと、ある意味、もぐらたたきのような改善プランかという気はしていました。ここが弱いからたたけばいいと。そうではなくて、横山さんがおっしゃったみたいに、まず基幹のものはここ、それ以外の細かいところはどういうところが対応するかとかいうことが見えるようなプランであるといいのではないかと、先ほどから伺っておりました。

そういうところも含めて、改善プランはだれが見ても、これを一つ一つ見ていくと、これはこれ、いいね、これはこれ、これいいね、これはいいねという見方ができるのですけれども、トータルとして、例えば新潟交通はこういう役割を持っています、この業者はこういう役割を持っています、地域はこういう役割を持っていますみたいなことがぼっと見えるようなプランになるといいと感じて、聞かせていただきました。

(事務局)

ありがとうございます。間もなくお時間になりますが、ほかに何かございませんでしょうか。

(大貫委員)

山の手の社会実験のことでお伺いしたいのですが、単純に考えて、チケットを買えば協力していることになるのかと思って、チケットを買ったこともあるのですが、乗らなければ意味がないということで、実際、今まで利用されている方が何の目的で乗ったのかというあたり横山さんに教えていただきたいと思います。

(横山委員)

4月から11月までの利用目的はほとんど買い物です。12月からは、プラス小須戸中学校生の通学です。12月から自転車通学が禁止なので、歩いていかななくてはならないのです。そうすると、おじいちゃんやおばあちゃんがいる人たちはいいですが、そうではない方は大変なのです。合併前から何とかしてくれという話があって、最初は乗らなかったのですが、小須戸中学校のPTAの皆さんと会合をもったり、乗って支える運動をしたり、今年から手持ちの時刻表を作ったり、呼びかけをしたり、定期的に運営会を開いたり、住民の皆さんとそういう運動を繰り返してきて、ただ、今の状況であれば、4月から11月に伸びない理由は、買い物だけではなくて、どうしてもやはり病院に行きたいとか、例えば図書館に行きたいとかという問題になると、今の地域限定ではまだ運転免許証は手離せない。そこがネックになっていて、これからは地域限定でなく秋葉区全体のことを考えたプランを作って、できるところから行動を起こしていかないと伸びないかなと。今、収支率の問題がありますけれども、うちは2年目で厳しい状態ですが、もし2年目に目的を達せないと本運行ができなくなるのです。本運行ができなくなると、今のバスもすべて廃止になる。そうなったら大変だと。そこが心配で、これを機会に、ほかのところも同じように、小合もアンケートを採っているようですが、同じように、あちらでも住民バスの社会実験をやるよりも、この際思い切って、秋葉区全体を考えた構想を描いて、みんなで責任を持つ。俺たちのバス、公共交通というものをやっつけていかないと、超高齢化社会に対応できなくなって、そのうち免許証を返納しないと交通事故が増えてくる。返したいけれども、返せないという実態

が解消できないと思うのです。

(事務局)

ありがとうございました。今ほど、横山さんから交通事故というなお話がありました。本日は秋葉警察署からも出席していただいておりますが、例えば、社会現象としての交通事故だったり、各コミュニティバス、住民バス、さまざまな公共交通が動いていますが、そういったところでの安全運行の部分について、もし何かご発言があれば、お願いしたいと思います。

(秋葉警察署)

秋葉署の佐藤と申します。交通事故に関してですけれども、先般、関越自動車道の逆走の事故、私はニュースでしか見聞きしておりませんが、警察には相談に行っていたという話もお聞きしています。高齢化に伴う身体能力の低下、そういう部分が出てくると思っています。

免許証の自主返納についても、秋葉署においてもだんだん増えてきている状況で、ほぼ毎日のように窓口に来られて返納されている方がいる現状であります。私は今年の4月に秋葉署に赴任してきましたけれども、ほぼ毎日あるようなイメージです。春の高齢者の事故以降、反響が大きさを実感しているところです。

今回の公共交通という部分は非常に重要なところかと思っております。警察だけではうまくいきませんので、行政と連携を図りながらという形になると思うのですけれども、いろいろと話を聞かせていただきまして、いかに止められるかということが大事ではないかと思えます。皆様に安全に乗っていただけるように、事業者に乗りやすい車だったり、乗りやすい場所、そういうところを検討して行って、よりよいものにしていければと思います。

(事務局)

ありがとうございました。

最後のほうのPR、まず、どうやって乗っていただくか。委員の皆様はご存じなのかもしれませんが、必要だということは分かるけれども、実際、利用が伸びないというところを今後、どうやっていくか。あるいは、今走っている公共交通についても、どのように結節点などを改善していくかというご意見もいただきましたし、各病院ですとか、商業施設等への乗り入れ、延伸というご意見も出ました。冒頭、横山さんから話があったように、現在の計画自体はそれほど大きく変える必要はないけれどもという前置きがあった中でした。

そろそろお時間になってまいりましたので、本日いただきました皆さんからのご意見、ご提案等を参考にしながら、事務局で再度案を練り直させていただきまして、次回、第2回の検討会議でご案内したいと思います。つきましては、本日、冒頭、皆様にご確認しましたが、次回の日程調整のためのファックス送信票を資料としてつけさせていただきました。誠に勝手ではありますが、おおむねの開催時期を入れたものにしております。できるだけ大勢の方からご参加いただける日程を調整したうえで、再度、ご案内をさせていただきたいと思しますので、まずは、その用紙を使いましてファックス、あるいはお電話で直接ご連絡いただいてもかまいません。皆さんの日程を調整し、再度、1月14日から17日の間でご案内をさせていただきたいと思っております。

以上で、2「議事」について終わりたいと思います。

(3) その他  
特になし

3 閉会